

2023年3月期 第1四半期 決算電話カンファレンス 主な質疑応答記録

日時:2022年7月27日(月)12:00 ~ 13:00

出席者: 代表取締役 専務執行役員 経営企画本部長 杉村 英男

<化成品、セメント、電子材料の価格修正について>

Q:化成品、セメントで今年度に入って打ち出している価格修正は浸透する前提で通期予想を据えておいているのか。

A:化成品は先般も公表したが、ある程度ご理解いただけるものと考えている。セメントは本日価格修正の発表を行い、これまでにないような厳しい修正を打ち出している。昨年秋からみると、5,000円強の価格アップとなるが、石炭がこれだけ上がっているので、満額に近づくよう交渉に入りたい。足元の状況は厳しいが通期予想達成に向けて注力する。

Q:セメントの価格修正について、国内最大手はサーチャージ制を打ち出している。サーチャージ制については検討しなかったのか。

A:事業部で検討は行ったが、お客さまにご理解いただく上では価格という形でじっくり交渉していく。交渉の余地も含めてサーチャージにはしなかった。

Q:電子材料での価格修正状況はどうか。特に多結晶シリコン、ICケミカルについて教えてほしい。

A:多結晶シリコンは昨年秋から金属ケイ素、電気代が上がりかなり厳しい交渉をしている。ICケミカルについてもナフサ高騰に伴い、厳しい交渉をして、一部のお客さまは見直しに応じていただいている。引き続き交渉を続けていき、2Q以降は改善も織り込んでいる。

<化成品の海外市況と輸出比率について>

Q:アジアで塩ビ・苛性ソーダの海外市況が下がっているようだが、今後の見方について教えてほしい。国内の価格修正に影響はないのか。

A:国内の価格修正について比較的理解いただいている。海外市況は下がっているが、インドのモンスーン、中国の動向をみていずれは回復すると見ている。回復時期までは多少在庫を抱えるなど、様子を見ることも考えている。

<ICケミカル事業の立ち上げについて>

Q:高純度IPAの今後の見通しはどうか。

A:台湾のユーザーで新たにfabが増強され、使用量が増えると聞いているので、台湾・韓国の拠点をしっかり立ち上げ、地産地消の供給体制を整えていく。

以上